

ぐんまの「魚道」を考える（10）

今回の魚道は、利根川の懸案となっている坂東大堰の魚道です。

坂東大堰は、1602年（慶長六年）に工事が着手されたとされる天狗岩用水等の合口堰として昭和26年に完成した堰であり、60年近くの歳月が経過しています。現在の魚道もその当時に設置したものと思われます。この堰は昭和34年の伊勢湾台風、昭和56,57水害、平成10年水害等を履歴した結果、下流の河床が低下し魚道の入口に大きな段差を生じたこと、右岸の河岸が削られたことにより川のミオ筋が右岸に寄って魚道が設置してある左岸側への水が少なくなり、魚が魚道入り口に集まりにくくなりました。

2004年10月21日
出水の様子



昭和56,57水害前の
坂東大堰航空写真
ミオ筋は中央から左岸側

河床低下も進んで
いない様に見える。

（昭和50年撮影）
堰の下流には砂礫が
たくさん堆積しています。



下流の河床低下は、昭和 56,57 洪水で主に生じたものと考えられますので、魚道が機能しなくなってから、約 27 年間放置されてきたこととなります。

この魚道入口問題に対して、応急対策としてぐんまの魚振興室による工事が行われた結果、十分とは言えませんが“入口問題”少し緩和されました。

【魚道入口問題】

魚道入口の段差問題



県ぐんまの魚振興室による
応急工事

魚道入口が巨石とコンク
リートを利用した斜路となり、
若干改善された。増水時には段差
が減少するため、効果を発揮する。



魚道の出口の最上流プールは、水深が確保できない構造となっているため、遡上を阻んでいます。平成 21 年 11 月のことですが、50cm 級のピンシャン美形ニジマスが水深の無いコンクリート上に乗り上がりましたが、遡上出来ず下流に泳ぎ去って行くのが目撃されました。

【魚道出口問題】

最上流の魚道プール内の水深が確保されていない。遡上が困難となる。

(魚道を上から見た写真)



この出口問題は、現在対策が検討中であり、平成 22 年 3 月末頃には対策工事（仮設）が完了する可能性があります。この入口と出口の問題が仮設的とは言え完成すると、H22 初夏のアユやサクラマスの遡上が可能となると思われます。

H22 年は、こんな風景が見られないかも？

(本流竿を操る大物釣り師達)



ところで、坂東大堰については署名活動等により、新たな魚道の設置を要望してきた経緯がありますが、事態の進展は思わしくありません。60 年近く経過した堰の老朽化調査もやっと終了し、平成 25 年度から堰の改修事業着手の予定のようですが、現在の社会状況下では“絵にかいた餅”になりそうで、とても心配です。一日でも早くアユ等の遡上障害が解消されることを期待したいですね。

(日本一のアユを取り戻す会 福田睦夫)